

薬学研究所 研究活動状況(令和3年度)

著書

担当区分	タイトル	出版社	出版日	著者
単著	医療機器の保険適用希望戦略	サイエンス&テクノロジー株式会社	2021.4.28	河原敦
編者	薬剤疫学の基礎と実践(改訂第3版)	ライフサイエンス出版	2021.7.15	久保田潔、他(27名)
共著	精神薬学領域でクリニカルファーマコメトリクスを応用する—リチウムの尿細管再吸収メカニズムに着目した個別化投与—	日本精神薬学会誌	2022.03	辻泰弘、山口大地
分担執筆	アプライドファーマコメトリクス	南山堂	2021.09	長谷川千尋・飯田浩之・荒井勇人(担当章訳)、緒方宏泰・松本宜明(監修)、辻泰弘・吉次広如(監訳)
分担執筆	「初回負荷投与を行うと定常状態への到達が早くなる」、臨床薬物動態のPITFALL—その常識, ウソ? ホント?—、薬局	南山堂	2021.11	花井雄貴、長谷川千尋、笠井英史、辻泰弘(監修)
分担執筆	「消失半減期と投与間隔にかかわらず、5回投与すると定常状態に達するので、5回目の投与直前のトラフ濃度を採血する」、臨床薬物動態のPITFALL —その常識, ウソ? ホント?—、薬局	南山堂	2021.6	浜田幸宏、丸山拓実、長谷川千尋、笠井英史、辻泰弘(監修)

分担執筆	「薬物の分布容積が小さいから組織移行性が悪い」、臨床薬物動態のPITFALL—その常識, ウソ? ホント?—、薬局	南山堂	2021.5	浜田幸宏、海老原文哉、 <u>長谷川千尋</u> 、笠井英史、辻泰弘(監修)
分担執筆	「薬物の分布容積が大きければ消失半減期は長くなる?」、臨床薬物動態のPITFALL—その常識, ウソ? ホント?—、薬局	南山堂	2021.4	浜田幸宏、海老原文哉、 <u>長谷川千尋</u> 、笠井英史、辻泰弘(監修)

薬学研究所 研究活動状況(令和3年度)

論文

単著・共著区分	論文名	掲載雑誌	巻	号	ページ	出版日	著者
共著(第一著者)	Comparison of new expanded functions of pharmacists among Japan, the US and the UK	International Journal of Green Pharmacy	Vol.15	No.2	146-151	2021.6	<u>Atsushi Kawahara</u> , Kiyohito Nakai, Naomi Kurata, Miwako Kamei
共著(第一著者かつ コレスポンディング オーサー)	The validity of the claims-based definition of rheumatoid arthritis evaluated in 64 hospitals in Japan	BMC Musculoskeletal Disord	22	1	373	2021.4	<u>Kiyoshi Kubota</u> , Masaki Yoshizawa, Satoru Takahashi, Yoshiaki Fujimura, Hiroko Nomura, Hitoshi Kohsaka
共著(コレスポンディング オーサー)	Quantitative analysis of inulin distribution in the brain focused on nose-to-brain route via olfactory epithelium by reverse esophageal cannulation	Journal of Controlled Reseach	332		493-501	2021.4.1	Mitsuyoshi Fukuda, <u>Takanori Kanazawa</u> , Shingo Iioka, Takayuki Oguma, Ryohei Iwasa, Saki Masuoka, Naoto Suzuki, Yasuhiro Kosuge, Toyofumi Suzuki
共著(コレスポンディング オーサー)	Nose-to-brain/spinal cord delivery kinetics of liposomes with difference of surface properties	Journal of Controlled Reseach	344		225-234	2022.3.1	Takumi Kurano, <u>Takanori Kanazawa</u> , Aoi Ooba, Yudai Masuyama, Nao Maruhana, Mayu Yamada, Shingo Iioka, Hisako Ibaraki, Yasuhiro Kosuge, Hiromu Kondo, Toyofumi Suzuki
共著(第一著者以外)	Validation of self-monitoring devices supporting sodium intake reduction: an experimental feeding study using standardized low-salt and high-salt meals among healthy Japanese volunteers.	Annals of Nutrition and Metabolism	Vol.77	No.5	289-298	2021.9.23	Motoki Arakawaa, Takayuki Watanabe, Koya Suzuki, <u>Junichi Nishino</u> , Hiromitsu Sekizuka, Toshiyuki Iwahori, Shin-ichi Ono, Shinji Hidaka
共著(第一著者)	Relationship between quality of life and treatment satisfaction in patients with overactive bladder in a community hospital.	Japanese Journal of Community Pharmacy	Vol.9	No.2	36-49	2021.12.25	<u>Junichi Nishino</u> , Mizuho Yoshikawa, Motoki Arakawa, Shoji Matsuzaki, Shinji Hidaka
共著(第一著者以外)	Apoptotic Effects of a Thioether Analog of Vitamin K in a Human Leukemia Cell Line	International Journal of Toxicology	Vol.40	No.2	517-529	2021.10.6	Satoru Asami, Mikana Suzuki, <u>Toshimitsu Nakayama</u> , Yasuyo Shimoda, Motofumi Miura, Koichi Kato, Eiichi Tokuda, Shinichi Ono, Takashi Kawakubo, Kenji Nishizawa, Kenzo Yamanaka, and Takashi Suzuki

薬学研究所 研究活動状況(令和3年度)

学会発表

発表課題名	学会名(開催地)	発表日	発表者
Effectiveness and safety of low- and normal-dose direct oral anticoagulant estimated by the nationwide claims data in Japan	Asian Conference on Pharmacoepidemiology (Korea)	2021.10.15	Kiyoshi Kubota
NACの細胞膜透過ペプチド修飾高分子ミセル併用経鼻投与による脊髄内分布向上とALSモデルマウスの延命効果[1C-15]	日本薬剤学会 第36年会(徳島, オンライン開催)	2021.5.13	藏野 匠, 渋市梨子, 鶴田こむぎ, 村山弘樹, 山崎海斗, 小菅康弘, 鈴木豊史, 金沢貴憲
鼻から脳への送達経路を介した水溶性中分子の体内分布評価[08]	令和3年度(第32回)日本大学薬学部学術講演会(日大薬, WEB開催)	2021.10.30	福田光良, 鈴木直人, 金沢貴憲, 鈴木豊史
Aryl hydrocarbon receptorによる非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の肝線維化制御機構の解明	フォーラム2021衛生薬学・環境トキシコロジー	2021.9.10	坂井晶紀, 和田平, 田辺真夕, 高杉幸子, 榛葉繁紀
時計遺伝子BMAL1による脂肪細胞ペーリュ化の制御	第44回日本分子生物学会年会	2021.12.01	石井宏剛, 北浦慧, 高杉幸子, 和田平, 榛葉繁紀

NASH発症に伴う肝繊維化の概日リズム	第44回日本分子生物学会年会	2021.12.01	和田平、田辺真夕、石井宏剛、高杉幸子、榛葉繁紀
時計遺伝子BMAL1による脂肪細胞ベージュ化の制御	第25回アディポサイエンスシンポジウム	2022.2.11	石井宏剛、北浦慧、高杉幸子、和田平、榛葉繁紀
NASH発症に伴う肝繊維化の概日リズム	第25回アディポサイエンスシンポジウム	2022.2.11	和田平、田辺真夕、石井宏剛、高杉幸子、榛葉繁紀
Aryl hydrocarbon receptorによる非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の肝線維化制御機構の解明	日本薬学会第142年会	2022.3.28	和田平、坂井晶紀、田辺真夕、石井宏剛、高杉幸子、榛葉繁紀
時計遺伝子BMAL1による脂肪細胞ベージュ化の制御	日本薬学会第142年会	2022.3.28	石井宏剛、北浦慧、高杉幸子、和田平、榛葉繁紀
時計遺伝子BMAL1による脂肪細胞のインスリン感受性制御とその生理的意義	第42回日本肥満学会	2022.3.27	榛葉繁紀、石井宏剛、北浦慧、高杉幸子、和田平

ローションとクリームの単独または同時適用時のローダミン6Gの皮膚移行	日本薬学会第142年会	2022.3.26	坂田 修、渡邊 彩乃、及川 裕美子、佐藤 希良里、橋崎 要、田口 博之
患者向医薬品ガイドの使用促進に向けた薬剤師及び患者の立場からの課題抽出と改善に向けた考察	日本薬学会第142年会(名古屋)	2022.3.27	西野潤二、吉田芳波、山口咲也子、小川敦、荒川基記、日高慎二
イマチニブに関する使用実態調査とアドヒアランス	第31回日本医療薬学会年会	2021.10.9	川邊一寛、大場延浩、中山敏光、福岡憲泰、坂本靖宜、後藤洋仁、鈴木太一、小池博文、佐橋幸子
フィブラートの使用と高血圧発生との関連：レセプトデータを用いた後ろ向きコホート研究	第31回日本医療薬学会年会	2021.10.9	鈴木奈緒、瀬野遥、関口佳純、中山敏光、福岡憲泰、大場延浩
適正な治験プロセス管理に向けた電子カルテの活用	第21回 CRCと臨床試験のあり方を考える会 in 横浜	2021.10.23	佐藤昴香、鈴木ゆかり、向後奈未、中山敏光、渡邊真由美、榎本有希子、加藤公敏
新型コロナウイルスがもたらした治験環境の変化における医療機関側の取組み	第21回 CRCと臨床試験のあり方を考える会 in 横浜	2021.10.23	中山敏光、川合真知子、向後奈未、吉村幸子、渡邊真由美、榎本有希子、加藤公敏
ヒト白血病細胞株におけるビタミンK3チオエーテル誘導体のアポトーシス効果	日本薬学会第142年会	2022.3.5	鈴木 美香奈、浅見 覚、中山 敏光、下田 康代、加藤 孝一、山中 健三、松本 高広、西澤 健司、鈴木 孝